Q 6-2 どのくらいの人が川を利用しているのですか？

水に親しむことを「親水（しんすい）」と呼びます。ここでいう「水」とは、水そのものを指すと同時に、川・海・湖沼などの水域全体を指す言葉です。一方の「親しむ」は「身近に感じる」といった意味ですから、「親水＝水に親しむ」とは「川と身近に接する」ことになります。したがって「親水活動」とは、人々が川を見たり、川に接したりすることで、精神的な恩恵（おんけい）を享受（きょうじゅ）する活動ということができます。

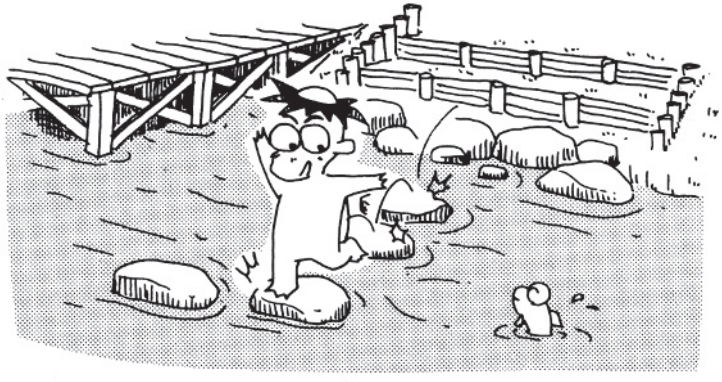
「親水」は、オイルショック以降社会全体が安定成長に入り、市民の求めるものが、もの中心から心の豊かさ・潤いといったものに移行しつつあった時期に、水辺づくりにおいても同様の要請（ようせい）が高まり、「治水」・「利水」に次ぐ川の第３の機能である「環境」のなかの大事な要素として定着しました。

川にかかわる活動のなかで、親水活動と呼ばれるものは、その多くが「水辺のレクリエーション活動」のことです。このなかには、カヌー・ボート

いろいろな親水施設

		親水施設の役割	
		中心的（施設が舞台となる）	支援的（施設を道具として利用）
水と親水活動のかかわり度	直接的（水あるいは川を使って活動する）	・河川プール（安全な川で泳ぐ） ・人工ビーチ（川で海水浴気分にひたる） ・水辺の楽校（水遊び、ボート体験、せせらぎ鑑賞）	・桟橋（カヌー・ボートの出入に使用） ・スロープ（水辺へのアプローチ）（寝転ぶ） ・階段護岸（水辺へのアプローチ） ・テラスデッキ（釣り）
	間接的（川の空間を背景として楽しむ）	・噴水（水辺独自の風景をつくる） ・水上ステージ（水辺の演出で盛り上がる） ・ボードウォーク（木製遊歩道） ・テラスデッキ（眺望を楽しむ）	・ライトアップ（川の夜景を演出） ・サイン（案内施設）

株式会社建設技術研究所　http:/www.ctie.co.jp/
Copyright ⓒCTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.



のようなスポーツや、釣り・水泳・水遊びといったレジャーなど直接的に水辺を楽しむものから、散策のように川の風景を間接的に楽しむものまで含まれます。「親水施設」は、この水辺のレクリエーション活動を支援したり、活動の舞台そのものとなります。

表では、現在までに整備されてきた親水施設について、水とのかかわり度合い（直接的か間接的か）、親水施設の役割（中心的（舞台）か支援的（道具）か）という2つの視点で整理してみました。ただし、実際にはひとつのテラスデッキが釣り場だけでなく眺望を楽しむ場としても利用されるなど、複合的な役割をもっていることが多くあります。

川は、日常的な散策を中心に、1年間でのべ1億8,000万人以上に達するほど多くの人々に利用されています（平成18（2006）年現在）。1日あたりで見ると平日で約45万人、休日で約105万人にもなります。

川がその開放性や自然性を持ち味に、散策・スポーツ・釣り・水遊びといった身近で幅広い活動の場となっていることを示しているといえるでしょう。

このように川の利用者が多くなっている背景には、市民生活において自然志向が高まっていることがあります。特に近年はその傾向が強く、河川整備においても人工的な都市公園のようなものから、自然性を生かした身近な自然としての川づくり（多自然川づくり）へと移行しています。

株式会社建設技術研究所　http:/www.ctie.co.jp/
Copyright ⓒCTI Engineering Co., Ltd. All Rights Reserved.